

IMF プレス・リリース（日本語仮訳）

IMF クリスティーン・ラガルド専務理事、国際協調のさらなる強化を求める

大阪で開催された G20 首脳会議の閉会にあたり、IMF のラガルド専務理事は以下の声明を発出しました。

「今回の G20 首脳会議の議長を務められ、我々を温かくお迎え下さった安倍晋三総理大臣、麻生太郎副総理、日本銀行の黒田総裁に心より感謝申し上げます。」

「G20 各国首脳との議論でも、世界経済が難しい局面にあることが分かりました。投資は弱含み、貿易は大幅に減速し、輸出入の伸びは世界金融危機以降で最低の水準です。IMF では、成長は今後ある程度回復するだろうと期待していますが、その見通しに対するリスクは深刻なままです。」

「中でも大きなリスクは貿易です。米中の貿易交渉の再開は歓迎しますが、これまでに発動された関税が既に世界経済の足枷となっており、未解決の問題が将来に大きな不確実性をもたらしています。これまでも述べているように、優先されるべきは新旧や関税・非関税を問わず貿易の障壁を削減し、貿易面での緊張や歪曲を生んでいる根本原因に対処することだと私は改めて強調しました。」

「我々が必要としているのは今の世界に合った貿易システムです。つまり、農産業補助金、サービスや電子商取引などの分野を含め、国際的なルールブックの足りない部分を補っていかなければなりません。その思いから、安部首相が発表されたデータ流通と電子商取引に関する『大阪トラック』を私は歓迎しました。また、全ての国・地域の経済に恩恵をもたらす WTO 改革の加速を、多くの首脳と共に呼びかけました。」

「更に、信頼を回復し成長を促す政策の実行が必要な分野が、ほかにもあることを指摘しました。つまり、各国中央銀行の政策は引き続き最新のデータに基づき調整

していく必要があること。財政政策は成長と債務の持続可能性のバランスを取らなければならないこと。そして構造改革は生産性の向上と雇用を下支えしうることで。」

「同時に G20 は法人課税、金融規制改革、汚職、気候変動など喫緊の共通課題への重要な取り組みを継続しなければなりません。プラスチックごみの海洋流出を減らすための『大阪ブルー・オーシャン・ビジョン』を強く支持します。」

「今回、私は女性活躍に関する首脳イベントにも参加しました。女性のエンパワメントは世界経済にとりマクロ的に重要な課題で、ジェンダーギャップを縮めることは日本を含む多くの国の GDP を大きく引き上げる効果があるという IMF の分析結果を安倍首相に提出しました。」

「最後に私は、世界経済は今、確かに不安定な段階にあるものの、適切な政策と協力を通じて直面する課題を必ずや克服し、世界経済をより強固かつ持続可能で均衡ある包摂的成長の軌道に乗せることができると申し上げました。」

「改めて、議長国を務めて下さった日本国政府と大阪を始めとする関西、そして日本の皆様に感謝申し上げます。」